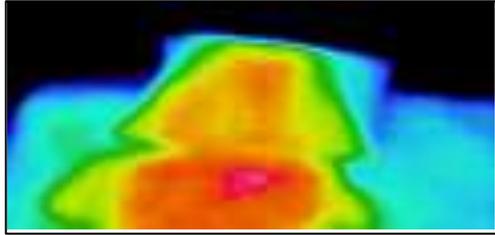


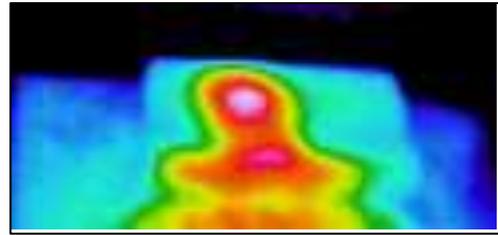
備長炭健康まくらサーモグラフィ実験

2009年2月17日 11:00～

常滑窯業試験場監修



A備長炭健康まくら

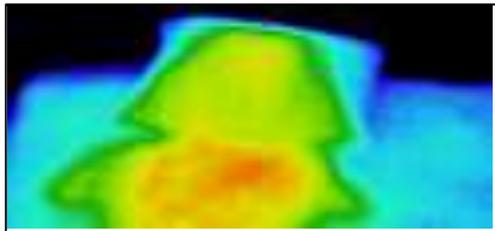


B低反発まくら

両方のまくらに寝て貰い10分経ってから、サーモカメラで測定した。

Aの備長炭健康まくらは、熱がまくら全体と肩口まで広がっていることが分かる。

Bの低反発まくらは、熱が一点に集中しており熱の広がりはない。



人が離れてから、熱の伝わり方と蓄熱を測定した。

A備長炭健康まくらは熱の伝わりが広く、まくらの上が扇型に温度が残っています。

B低反発まくらは、熱の広がりが無く一点に集中し熱が逃げ難いようです。

所見

備長炭まくらは、熱の広がりが大きくまくら全体に熱が広がり首回りや肩口まで暖める効果が出ました。

又全体に平均して熱が残り、適度に温度を下げるので頭によいと思われれます。

低反発まくらは、熱の広がりも無く一点に集中して温度が蓄熱され、温度が一点に残ってしまい頭に熱が残ってしまいます。